

# IMT - 2000標準化の概要

佐藤一美\*  
牧平経市\*\*

## 要 旨

世界共通の携帯電話方式に対する期待が起こり、開発に着手したのはアナログ方式がサービスを始めて間もない1980年代中ごろであった。以来、十有余年の歳月を掛けて世界的なコンセンサスを得ながら関連勧告類を完成させていき、ようやく、1999年11月になってITU-R (International Telecommunication Union the Radiocommunication sector) がIMT - 2000の無線インタフェース詳細仕様の勧告 (ITU-R M.1457) を完成させた。

一方、具体的な製品化を実現するために、日欧米中韓を中心とした関係国及び関係地域の民間標準化機関がパートナーシップを形成し、共通の技術仕様の開発に着手した。最初の技術仕様が1999年12月にまとめられ、2001年10月には日本において、ドコモが世界に先駆けて商用サービスを始めた。

なお、共通の技術仕様の対象となるサービスは、音声サ

ービスから大きく発展し、マルチメディアサービスへと質的にも量的にも充実が図られている。

三菱電機は、この活動の重要性にいち早く注目して初期の段階から標準化活動に参画してきており、具体的な作業が標準化機関で始まると全社的な取り組みを整えて、当社開発による技術の提案を行ってきた。成果として、無線区間の暗号アルゴリズムには当社保有技術のMISTY方式の技術的優位性が認められ、それを核とするKASUMI仕様が当社を中心とした専門家によって開発されたこと、MPEGコーデック仕様、音声コーデックや無線伝送方式の改良等に国際的な貢献を行ってきたことである。

本稿では、上記の世界共通技術仕様の開発に長い年月と大きなエネルギーが注ぎ込まれた経緯と成果、及び今後の動向について説明する。



写真1 1999年11月 ITU - R TG8 / 1  
ヘルシンキ会合



写真2 2001年12月 3GPP京都会合

## 写真の説明

写真1：ITU-R TG8 / 1は1991年に第1回会合を開催し、1999年11月の第18回ヘルシンキ会合において最終的なIMT - 2000の無線伝送技術の勧告 (ITU - R M.1457) 案を承認し、閉会となった。写真はそのヘルシンキ会合のスナップである。

写真2：2001年12月に3GPP (3rd Generation Partnership Project) の第14回TSG会合が京都国際会館で開催された。写真は、無線アクセスネットワーク仕様を開発しているTSG RAN会合のスナップ写真である。会合直前の10月には、ドコモが世界に先駆けて商用サービスを開始したところであり、会議場でも披露されて参加者の関心を集めた。